

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

団体名	和	国際数学連合
	英	International Mathematical Union (略 称 IMU)
	団体 HP (URL)	http://www.mathunion.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 <u>有</u> ・ 無)
国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)	IMU は数学界で最も権威ある国際学術団体であり、世界の 72 か国が参加するなど、高い国際性が特徴である。その中で日本は、主要 10 か国からなる第 5 グループという最高ランクに位置付けられている。森 重文 IMU 現総裁はアジアから初めて選出された総裁である。アジアで行われた研究でフィールズ賞受賞者を出しているのは日本だけであり、第一回目のガウス賞に輝いたのは 伊藤 清 京都大学名誉教授である。この様に、我が国はアジアを名実ともにリードする地位を保っている。 IMU は 4 年に 1 度開催される世界最高・最大の数学の会合である国際数学者会議(International Congress of Mathematicians, ICM)の主催団体である。参加者は 5000 人、参加国は 120 か国を超える。ICM の主要行事の一つにフィールズ賞やガウス賞の発表と授与式があり、その取材と情報発信のために、世界各国の報道機関がプレスセンターに集結する。フィールズ賞は 40 歳未満の数学者に与えられる世界最高の名誉を持つ賞とされ、しばしば「数学のノーベル賞」と称される。ガウス賞は、数学研究に留まらず、社会にインパクトを与えた業績を挙げた数学者に与えられる賞である。 最近のトピックとしては、次回 2018 年の ICM に向けた動きが顕著である。次期プログラム委員会 (プログラム作成に加え基調講演者・パネル招待講演者も選考する委員会)、理事候補推薦委員会、フィールズ賞、ガウス賞、チャーン賞をはじめとする選考委員会など、各種の委員会が設立され、企画運営が着々と進行中である。アジア数学連合設立構想については議論が続いている。	
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方式・研究助成方式等について	IMU は ICM の運営全般に決定権を持っており、ICM のセッションの選択、フィールズ賞やガウス賞の顕彰、基調講演・パネル招待講演等の最終選考を行っている。これらの講演者に選ばれる事は、過去 4 年間で最も重要な研究成果を挙げた数学者と認められた事を意味する。このように IMU は数学研究の世界的動向に極めて重大な影響を与えている。 IMU は特定の研究テーマに対する政策提言を行う機関ではないが、発展途上国の数学・数学教育振興や女性研究者の育成について重点的支援を行うための政策提言を行っている。並行して、発展途上国の大学院生のための支援基金 (IMU Breakout Graduate Fellowship Program) が創設され、その公募活動が始まったところである。	
日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によ	森 重文 京都大学高等研究院特別教授が、現在の総裁として IMU 理事会をまとめている。理事・総裁を推薦指名する重要な権限を持つ推薦指名委員会の委員に 柏原 正樹 京都大学数理解析研究所教授が就任	

様式第2 (第12条関係)

って進展や成果があったものについて	していた事が、森総裁の実現に大きな役割を果たした。
加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への効果やメリットについて	日本は最高レベルの第5グループに所属し、総会に5名を派遣する権限を有している。日本学術会議から5名を派遣し、重要な議事に当たり5票の議決権を行使する事により、IMUの意思決定に影響を持つ事が可能となっている。 日本学術会議は国際科学会議（International Council for Science, ICSU）に加盟しており、その存在感を維持し今後一層強化していく事は、科学技術立国の在り方として、極めて重要な課題である。ICSU執行部（Executive Board）に、Daya Reddy 次期総裁、Manuel de Léon 理事、John Ball 理事の3名の数学者が入っている事からも、ICSUに於いて数学は重要な地位を占めている事が分かる。日本学術会議がIMUに加入している事によって、数学の立場から、ICSUに於ける我が国の存在感、異 和行 理事の立場を補強する事が出来る。実際、異先生の理事選挙に於いて、IMUは支持した経緯を持っている。また、吉野 博 日本学術会議会員が事務局長を務めるアジア学術会議（Science Council of Asia, SCA）のICSU加盟に際し、必要条件とされた「3団体以上のUNION会員の賛同」に関してIMUは支持文書をICSUに発出したが、この働き掛けも日本学術会議がIMUに加盟している事によって実現したものである。 数学は学術体系全体の中で最も基礎的な学問の一つであり、科学全般の根幹を成している。平成28年1月22日に閣議決定された第5期科学技術基本計画の第2章（未来の産業創造と社会変革に向けた新たな価値創出の取組）には、「超スマート社会の構築に必要となる基盤技術を支える横断的な科学技術」として数理科学が挙げられている。平成28年4月19日開催の産業競争力会議に於ける文部科学大臣提出資料「第4次産業革命に向けた人材育成総合イニシアチブ」では、「数理・情報が第4次産業革命の鍵」と位置付けられている。この様に、数学振興は日本国政府の政策であり、日本学術会議がIMUに加入している事によって、国際舞台における具体的活動を通じて、その政策実現に寄与する事が出来る。 国内に於いては、日本数学会、日本応用数理学会、日本数学教育学会、日本統計学会をはじめとする数学関連学会の国際ネットワークへの窓口として、国内の数学者・数学教員の研究・教育活動に対して国際的な機会を提供している。特に、ICMに於ける各種受賞者（フィールズ賞やガウス賞など）・基調講演者・パネル招待講演者の候補を推薦する国内唯一の窓口となっている。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期	女性研究者の育成について話し合う会議 Miniworkshop for Women in Mathematics が京都で3月29日に開催された。 これは2016年4月に京都で理事会が開催されたのを機に、女性数学者のIngrid Daubechies 前総裁を中心に企画されたものである。

様式第2 (第12条関係)

的な方策等の特記事項など)	
---------------	--

2 今後の予定について (内規第11条 活動報告)

総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め)	2016年4月に京都で理事会が開催された。(日本学術会議の後援はIMUから要請されていない)
日本人の役員立候補等の予定について	現在、日本から総裁を出しているため、次期の理事候補推薦委員を推薦することは出来ないが、発展途上国支援の委員会をはじめとする各種委員会に役員を推薦することを検討中である。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて	アジア数学連合設立構想を中国・韓国との3カ国を中心に進めているところである。定款 (Statutes) 及び規約 (By-laws) の最終案について各国と調整中の段階である。

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第11条 活動報告)

総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの)	総会開催状況	国際数学連合総会 IMU・General Assembly 2010年 (開催地: ニューデリー) 2014年 (開催地: 慶州) 2018年 (開催地: サンパウロ)
	理事会・役員会等開催状況	国際数学連合理事会 Executive Committee 2012年 (開催地: リオデジャネイロ) 2013年 (開催地: ベルリン) 2014年 (開催地: プリンストン、慶州) 2015年 (開催地: ベルリン) 2016年 (開催地: 京都) 2017年 (開催地: ロンドン) 2018年 (開催地: サンパウロ)
	各種委員会開催状況	数学教育国際委員会 ICMI 2013年 (開催地: ベルリン) 2014年 (開催地: リオデジャネイロ) 2015年 (開催地: マカオ) 2016年 (開催地: ハンブルグ) 発展途上国委員会 CDC 2013年 (開催地: ベルリン) 2014年 (開催地: ソウル) 数学史委員会 ICHM 2013年 (開催地: パース) 2014年はメール会議のみ 電子情報通信委員会 CEIC 2013年 (開催地: パース) 2014年 (開催地: ソウル)

様式第2 (第12条関係)

	研究集会・会議等開催状況	International Congress of Mathematicians 2010 年 (開催地: インド) 2014 年 (開催地: 韓国) 2018 年 (開催地: ブラジル) International Congress on Mathematical Education 2012 年 (開催地: 韓国)		
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	2010 年 国際数学連合総会 IMU General Assembly (インド バンガロール) 5 人 (うち代表派遣: 柏原 正樹、宮岡 洋一、坪井 俊) 2010 年 国際数学者会議 ICM (インド ハイデラバード) 15 人 (うち代表派遣: 柏原 正樹、宮岡 洋一、坪井 俊) ・セッション招待講演者 4 人 2014 年 国際数学連合総会 IMU General Assembly (韓国 慶州) 6 人 (うち代表派遣: 小澤 徹) 2014 年 国際数学者会議 ICM (韓国 ソウル) 199 人 (うち代表派遣: 小澤 徹) ・基調講演者 1 人 ・セッション招待講演者 6 人			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況 (過去 5 年)	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	総裁	2015～2019	森重文	(20 期) 会員・ <u>連携</u>
	副会長	2003～2006	柏原正樹	(22, 23 期) 会員・ <u>連携</u>
	副会長	1999～2002	森重文	(20 期) 会員・ <u>連携</u>
出版物	1 定期的 (年 1 回) 主な出版物名 IMU Bulletin (4 年に 1 回) Proceedings of the International Congress of Mathematicians			
	2 不定期 (隔月) 主な出版物名 IMU Net			
活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載 (http://www.mathunion.org/fileadmin/IMU/about/booklet/Dossier_imu_v2.pdf)				

様式第2 (第12条関係)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

国内委員会 (内規第3号)	委員会名	数理科学委員会 IMU 分科会
	委員長名	小澤徹
	当期の活動状況	(開催日時 主な審議事項等) 平成 27 年 7 月 31 日 (12:00-14:00) 委員長の選出、IMU 分科会の目的の確認、 ICM2014 の総括、ICM2018 に向けての計画等を審議した
内規第3条 (国際学術団体の要件関係)	国際学術交流を目的とする非政府かつ非営利的団体である ☒ 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://www.)	
	各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) ☒ 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.)	
	下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印) ☒ ア 個々の学術の専門分野における統一的かつ世界的な組織を有するもの イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一的かつ世界的な組織を有するもの ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの	
	10 カ国を超える各国代表会員が加入している ☒ 1. 該当する 2. 該当しない	
	加入国数及び主要な各国代表会員を 10 記載	(72 ケ国) ・各国代表会員名／国名 ・Science Council of Japan (日本学術会議) / 日本 ・U.S.National Academy of Science / 米国 ・London Mathematical Society / 英国 ・Académie des Sciences / フランス ・Deutsche Mathematiker - Vereinigung / ドイツ ・Istituto Nazionale di Alta Matematica / イタリア ・National Research Council of Canada / カナダ ・Russian Academy of Sciences / ロシア

様式第 2 (第12条関係)

		• Chinese Mathematical Society (事務局は Chinese Academy of Sciences) および The Mathematical Society of the Republic of China / 中国 • Israel Academy of Sciences and Humanities / イスラエル
--	--	--